

技術情報カード

No.59

平成16年3月



技術情報カード No.59
平成16年3月

徳島県立農林水産総合技術センター
森林林業研究所

〒770-0045
徳島市南庄町5丁目69
TEL 088-632-4237
FAX 088-632-6447



メグスリノキ —取り木・挿し木による増殖試験結果—

はじめに

メグスリノキは日本にのみ自生するカエデ科の落葉高木で、樹皮を煎じた汁で洗眼すると目がよく見えるようになることからこの名前が付けられたそうです。また、最近では肝臓疾患に対しても大変効果があることが分かり、一時期大ブームになりました。しかしながら、この木の結実は年ごとの豊凶差が激しく、充実種子が少ないため発芽率が1%以下と非常に低く、しかも雌雄異株であることもあり種子による増殖が難しい木といわれています。

そこで、当研究所では、簡易に増殖できる手法として無性繁殖法（取り木、挿し木）による増殖試験を実施しましたので、メグスリノキの紹介と併せて試験結果の概要を報告します。

1 薬用樹メグスリノキ

メグスリノキは青森、秋田の両県を除く本州全域と四国、それと宮崎、鹿児島、沖縄を除く九州に分布しています。ただし、標高700m前後の山中にしか自生しないため、本県での自生地の分布も限定されています。（写真1）

メグスリノキの成分が目や肝機能に対して効果的に働くメカニズムなどは十分に解明されていませんが、煎じ液で老眼、仮性近視、花粉症の涙目が改善した例や、肝炎やじん麻疹の改善例なども数多く報告されています。



写真1 天然木（木沢村西三子山の中腹）

中国では古くから「肝氣は目に通ず、肝和すれば目よく五色を弁ず」（肝臓と目には密接な関係があり、肝臓の働きがよくなると目もよくなるという意味）といわれており、メグスリノキが肝機能を回復させることにより、眼病にも効果があると推測されています。

このように薬用樹として価値の高いメグスリノキですが、この木は秋の紅葉が大変美しく、緑化木としても注目されています。

2 試験方法

(1) 取り木試験の方法

研究所内に植栽した約10年生のメグスリノキに5月下旬に取り木を行いました。剥皮方法を環状剥皮（写真2）と半月剥皮（半月状に枝の一部を剥皮）の2種類、さらに剥皮部に発根促進剤を塗布する、塗布しないの2種類の方法を組み合わせて、表1のとおりAからDの4種類の試験区を設けました。剥皮部分は湿らせた水苔を巻きつけ、その上をビニールで覆い固定しました。各試験区につき5か所、計20か所で取り木を行いました。

表1 取り木試験の試験区の種類

試験区の種類
A：環状剥皮+発根促進剤処理
B：環状剥皮+発根促進剤なし
C：半月剥皮+発根促進剤処理
D：半月剥皮+発根促進剤なし

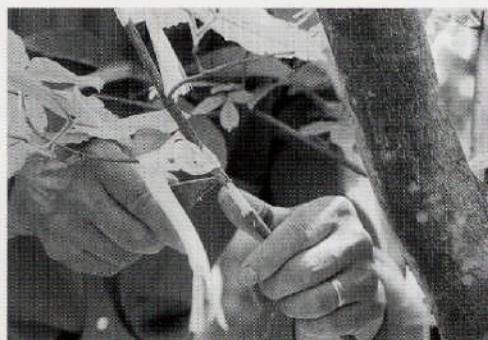


写真2 取り木の状況（環状剥皮による方法）

(2) 挿し木試験の方法

挿し木については、挿し木の時期、床の種類、挿し付け方法などを変えた様々な試験を実施したなかで、最も発根率の高かった方法について報告します。



写真3 密閉挿しによる試験状況

3月上旬に3年生の台木から前年枝を採取し、水苔に包み挿し付け時期まで冷蔵貯蔵します。概ね1か月後の4月上旬に、挿し穂を10cm程度の長さに調整するとともに、植物栄養剤のメネデール50倍液に24時間浸漬した後、密閉挿し（挿し床

をポリエチレンフィルムなどで密閉、写真3）しました。

なお、床には鹿沼土を用い、挿し穂の2分の1程度の深さまで挿し付け、挿し付け後は寒冷紗で遮光をしました。

3 試験結果

(1) 取り木試験の結果

11月に行った各試験区の生存箇所数、発根箇所数、カルス形成箇所数の調査結果を表2に示します。残念ながらいずれの箇所においても発根には至りませんでしたが、生存箇所数、カルスを形成していた箇所数は環状剥皮、半月剥皮とともに発根促進剤処理区に多くみられました。

表2 取り木試験の結果

試験区	取り木箇所数	生存箇所数	発根箇所数	カルス形成箇所数
A	5	3	0	3
B	5	0	0	0
C	5	2	0	3
D	5	0	0	0

(2) 挿し木試験の結果

今回報告した方法では、挿し付けた21本中7本に発根がみられ、発根率は33%でした。他の試験方法での発根率がほとんど0%であったこと、また、他府県で実施された挿し木試験結果と比較しても高い発根率を得ることができました。

おわりに

今回の試験では、取り木による増殖はできなかったものの、挿し木による方法では比較的高い発根率が得られました。

しかしながら、挿し木による増殖は親木の特性（樹齢、生理状態、品種特性等）、気象条件など多くの要因の影響を受けることから、技術の確立には今後も継続した試験が必要といえます。また、メグスリノキがもともと温帯性の樹種であることなどを考慮した場合、自生地に近い自然環境下での増殖が有利であるとも考えられます。

◆内容に関するお問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術センター

森林林業研究所 森林環境担当 島村 雄三

TEL 088-632-4237 FAX 088-632-6447